

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度(令和5年度)で10回目となります。

中国四国農政局管内では161件の応募があり、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として7地区と2名が選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった地区(者)の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として12地区と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として23地区と1名を選定しました。

さらに、今回は「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」が平成26年から始まり、第10回を迎えた記念として、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例を募り、18地区と4名の応募がありました。

今年度、応募のあった地区(者)の事例について、その地域の「農山漁村(むら)の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にいただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

令和6年3月

中国四国農政局農村振興部都市農村交流課



目次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 の取組概要	1
○ 応募地区一覧	5
○ 応募地区位置図	6
○ 応募地区の取組事例	7

第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝 全国選定



島根県大田市

大田商工会議所

グランプリ

★漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。

★大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者

島根県大田市

笠木 真衣

優秀賞

★平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。

★農地(5反)を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。



糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

高知県大月町

大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

★地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

★地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



植樹祭



小学校での「製炭学習」

広島県神石高原町

株式会社BINGO

特別賞

★有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命を有効活用する取組。

★個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



処理された猪肉



ペットフード
プロモーション活動

愛媛県伊方町

朝日共販株式会社

特別賞

★フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。

★バイオプラスチックトレイへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



しらす漁



藻場礁設置

高知県黒潮町

特定非営利活動法人
NPO砂浜美術館

特別賞

★4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。

★砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受け入れを実施。



Tシャツアート展



海の脅威と恵みを学ぶ
防災学習プログラム

- ★ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを得る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ★水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消に取組。



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

- ★オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携で生産した果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高めるとともに、サステナブルな商工農福連携活動を実施。
- ★収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



オーナー不在の竹原市の令和5年 新ブランドぶどう園を再生 「果実なくリーむパン」

- ★地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ(惣菜)」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- ★1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



各催事では約15~20種のプリンを販売



ガイドブック「おでかけプリン」

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定



- ★沿岸漁業者(小型底曳網)が中心となり鮮魚を直売。平成25年から令和4年までの間、漁村市を28回開催。現在は年4回毎回1500人前後が来場。消費者と直接言葉を交わして魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食を普及。仲買と連携し、ふるさと納税返礼品としても提供。
- ★地元高校が市を課題研究の場とし、市の運営に協力。地元水産関係企業へ就職する生徒も。園児には売り場見学やタッチングプール等の食育も実施。



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

- ★永田集落農地・水保全管理活動組織を中心に行ってきた棚田のシバザクラ植栽活動、農村景観による都市との交流の広域展開、更なる地域活性化のため令和4年度設立。シバザクラ9万本、花桃500本を植栽。
- ★春に「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。SNS等で積極的な情報発信を行い4年度は約4,000人来場。関係人口増と地域活性化に効果。



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」販売中!

- ★日生町にて漁協、小中高生、消費者等が協力しアマモ場を再生。アマモ場や再生活動を海洋教育の土台とし、地域内外の学校や市民、様々な業種の人々が地域や世代、立場を超え共に取り組む。
- ★海洋プラチックごみも、子どもたちと拾い、どこから流されてくるか一緒に考え、ごみを使ったアート作品を作る。令和4年度の海洋教育と体験の参加者数は2,532人。



アマモ流れ藻回収



小学生による海ゴミの回収

カンキツスタンドオレンジ

- ★様々な柑橘が生産されている瀬戸田地区が抱える、生産者の高齢化、柑橘加工品の販売先確保等の課題解決の取組。
- ★地元の株式会社Stapleが令和4年7月から瀬戸田の柑橘を専門に扱うジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。農家と直接取引を行い現在23種類の柑橘ジュースを販売。令和4年度売上は10,800千円。
- ★取引生産者は3軒から10軒まで増加。店舗販売以外に広島市内や都内でのイベントに積極的に出店し、瀬戸田の柑橘をPR。



店舗で販売をしている
ジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と
共同開催をした
ジュースの試飲会

株式会社神東ファーム

- ★平成30年、神東地域振興協議会が地域おこし協力隊員とレモン栽培を構想中「後発組は希少価値の高い新品目で勝負」とマイヤーレモンを選択。
- ★栽培方法を習得後、同協議会の部会「レモンの会」を発足し、借り受けた耕作放棄地を開墾。行政の支援で(株)神東ファームを設立。
- ★地元銀行等の支援を受け、地元大手スーパーや老舗旅館など県内販路が定着。果汁100%の「そのまんまのマイヤーレモン」も今年から販売し千数百本が完売。令和4年度の収穫量は7t、売上は3,400千円。



11月頃のマイヤーレモン



小学生の農業学習

一般社団法人 そらの郷

- ★世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農山村のサステナブルな暮らしを体験する観光で、観光客増による所得向上、新たな雇用創出等地域活性化に取り組む。
- ★体験型教育旅行として、都市部中学生・高校生の受入家庭での農作業体験、収穫物の共同調理など農泊体験を商品化。
- ★農山村散策や農家での餅つきなどを組み込んだツアーによるインバウンド誘致が、「桃源郷」と称される農山村の風景や文化、地元農業者等のホスピタリティの面で高く評価されている。



伝統的な農作業
ツチアゲ体験



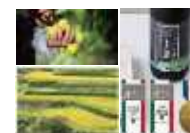
地元農家との交流
(餅つき体験)

株式会社本家松浦酒造場

- ★酒造会社が県内の様々な関係者と連携して行う取組。
- ★平成元年から原料を全て徳島県産にした日本酒の製造や平成24年から徳島県上勝町の棚田米を使用した日本酒、ゆこう使用のリキュールの製造の取組を通じ、生産者と連携。近隣の醤油蔵と連携した見学会を実施。令和4年度は直売所来場者15,876人、売上は26,000千円。輸出にも取り組む。
- ★大阪国際万博等のインバウンド需要を見据え、YouTubeなどで酒蔵地域周辺を案内する多言語化動画の配信やHPを作成。



酒蔵でのイベント
開催



棚田米やゆこうを
使った酒造り

一般社団法人さぬき市津田地区 まちづくり協議会

- ★津田地区の海辺を中心としたエリアリノベーションと農泊の推進。
- ★使わなくなった漁業倉庫や空き家への新規出店希望者の誘致、移住者支援を実施。令和4年に市と連携し地域おこし協力隊制度を活用した新規出店(ピザ店)をきっかけに出店増加。応募時点で4店が開店し今後も開店予定。
- ★地域おこし協力隊募集の際、採用者以外の応募者も協議会等がサポートし、家族を含む9名が市内に移住。



PORTO
PIZZA



空き家DIYの様子

愛媛県西条市

愛媛県立丹原高等学校 草花班

- ★地域を花木の一大産地とするため産官学民が連携し、苗の生産技術を確立する取組で、苗生産が不安定な品目の穂木～発根～出荷のプロセス構築の研究を同校が担当。
- ★同校の菊栽培技術を応用し平均19%の発根率が62%と有効性を確認。挿し穂の直径や挿し木時期による違い、地元JAと連携した生育環境での違いも調査。農家に還元可能な技術として成果は県東予地方局の「花木栽培マニュアル」に掲載され普及。地域では花木を主とした新規就農者も誕生。そのほか花木のPR活動も実施。



花木のPR活動



産官学民連携
プロジェクト成果発表

愛媛県宇和島市

企業組合津島あぐり工房「あすも」

- ★平成15年創業。地域の豊かな農水産物の加工品・惣菜など製造販売。地域農産物の需要拡大と、地域経済活性化による成長持続型活動を展開。
- ★平成24年「企業組合津島あぐり工房」として法人化。農家レストラン「あすも」をオープン。令和4年度の売上は42,000千円。スタッフが創業当初の4人から9人に増え、令和4年から廃校活用の新店舗に移転。
- ★平成30年西日本豪雨災害の教訓で始めた月一回の「ふれあいモーニング」は1日100人以上が来店。地域コミュニティの場に。



人と食、人と地域、
食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家
レストラン部門「あすも」

高知県香南市

井上ワイナリー株式会社

- ★高知の気候・風土に適したブドウ品種を選び、県内各地の生産者と一緒に栽培。県内各地の様々な料理と合うワインを醸造し高知の新しい食文化を提唱。
- ★平成24年に南国市で定植以来、栽培を5市町に拡大。耕作放棄地も再生。地元の老人クラブや高校生に収穫やラベル作りの手伝いを依頼。
- ★令和3年に自社醸造を開始、令和4年にショップを併設。ワインの試飲・販売、地域食材使用のグロスリー商品等販売。売上は令和4年度61,822千円。



地域の方々と共に
収穫作業



地元高知産ブドウを
使用したワイン

高知県津野町

農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

- ★住民の声をきっかけに、廃校となった旧小・中学校の校舎を活用し平成15年に設立した「森の巣箱」は、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた複合交流施設。
- ★安定経営のため、運営費用は各世帯の出資金、世帯毎に毎月「購買協定」を締結。宿泊施設で得た外貨も活用した、補助金に頼らない運営。施設職員(常勤1名、パート1名)以外住民も役割分担。
- ★イベント開催や修学旅行生受入も実施。令和4年度の売上は、コンビニ1,636千円、居酒屋1,282千円、宿泊施設3,039千円。



集落コンビニ



居酒屋

徳島県阿波市

寺井 稔

- ★平成24年に発足した阿波市の農業後継者グループ「GOTTISO阿波」の中心メンバーとして活動。
- ★農業や野菜の魅力発信、所得向上や農業人口増加を目指した活動、野菜の出張販売や広報を行い、地域のナスをブランド化。ナス好きの子供を増やそうと地元幼稚園や小学校で食育実施。
- ★グローバルGAP等を取得し2020東京オリ・パラの選手村へブランドナスを納品。それをきっかけに輸出、新たなブランド野菜育成に努める。



コロナ禍が明け
試食販売を再開



食育の授業

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) 応募地区 一覧 (高知県)

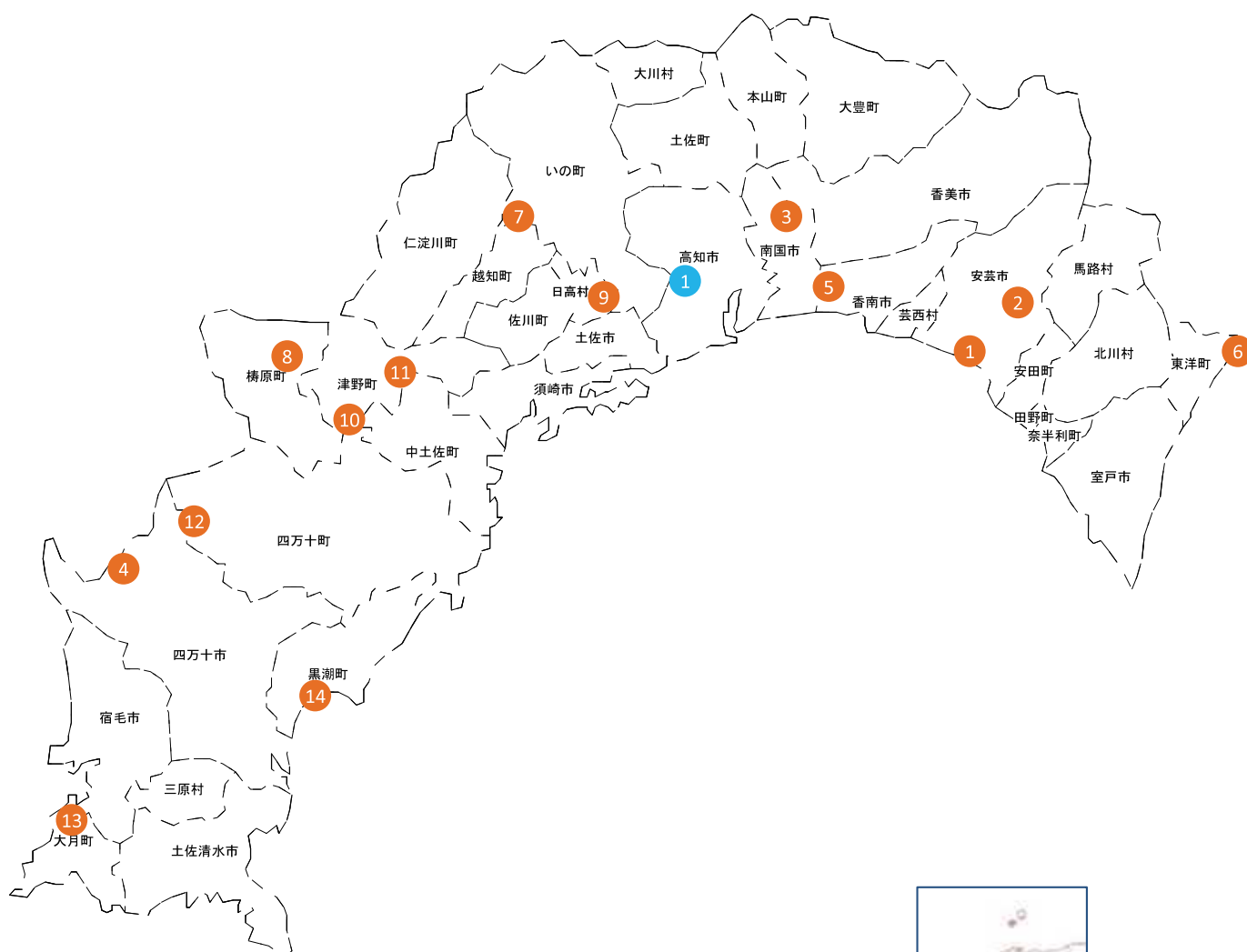
No.	選定地区	部門	市町村	地区名	該当する取り組み		
①		団体	安芸市	一般社団法人こうち絆ファーム 多機能事業所「TEAMあき」 就労継続支援B型事業所「TEAMいの」	農業	障害サービス 就労支援事業	農福連携
②		団体	安芸市	入河内大根のこそう会	農業	地産地消	伝統の継承
③	奨励賞	団体	南国市	一般社団法人エンジェルガーデン南国	農業	6次産業化	農福連携
④	奨励賞	団体	四万十市	株式会社大宮産業	農業	農村文化体験	地産地消
⑤		団体	香南市	井上ワイナリー株式会社	農業	6次産業化	荒廃農地対策
⑥		団体	東洋町	株式会社フクチャンFARM	農業	雇用	移住・定住
⑦	奨励賞	団体	いの町	明るい柳野を創る会	農業	移住・定住	高齢者の活躍
⑧		団体	梶原町	集落活動センターおちめん推進委員会	スマート 農林水産業	農泊	伝統の継承
⑨		団体	日高村	NPO法人日高わのわ会	6次産業化	女性の活躍	関係人口の創出
⑩		団体	津野町	農村交流施設「森の巣箱」運営委員会	多様な分野との 連携	農泊	関係人口の創出
⑪		団体	津野町	船戸活性化委員会「四万十川源流点」	農村文化体験	環境保全	女性の活躍
⑫	奨励賞	団体	四万十町	株式会社とおわ	地産地消	伝統の継承	女性の活躍
⑬		団体	大月町	大月町備長炭生産組合	林業	環境保全	食育・教育
⑭		団体	黒潮町	特定非営利活動法人NPO砂浜美術館	多様な分野との 連携	農泊	関係人口の創出

第10回記念賞応募地区

No.	部門	市町村	地区名	過去の選定実績
①	団体	高知市	高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部	令和4年度(第9回)選定 (特別賞)

応募地区位置図（高知県）

※ 青は第10回記念賞応募地区



～農福連携による地域共生社会を目指す～



ユニバーサル農園でのナス狩り体験



楮のへぐり作業・干し作業

経緯

- 高知県安芸地域は、県内で自殺死亡率が最も高く自殺対策が喫緊の課題であった。
- 高知県安芸福祉保健所が中心となり、自殺予防ネットワーク会議を立ち上げ、支援機関が連携し地域の課題を共有、その連携から平成26年に10年ひきこもりの生活困窮者をナス農家で就労させたことから農福連携が始まった。

取組内容

- 安芸市農福連携研究会や安芸市就労支援専門部会に参加。農福連携の普及啓発活動や定期的に生きづらさの理解を深める勉強会を開催。
- 矯正施設からの触法者の農業における地域社会奉仕活動を受入れ。
- いの町で「TEAMいの」をスタート。
- 農閑期前のハウスでナスの収穫体験による食育活動。
- 農福マルシェで農福商工連携をスタート。

活動の効果

- 地域を越えた広域的な連携が始まり、「障がい者」「引きこもり」「触法者」といった多様な人材が自立できる就農支援。生きづらさを抱えた人に対する理解を促進し暮らしやすい地域作りの促進。
- 労働力不足のナス農家から集荷し、障害者が袋詰めすることにより工賃が向上。農閑期には、いの町の伝統工芸である土佐和紙の楮へぐり作業を開始。農家の労働力不足及び後継者不足の解消にもつながる。

応募団体からのアピール・メッセージ

農福商工連携を継続して取り組み地域商店街、住民との接点を増やし活性化を促進させながら地域理解も深めていきます。

住所・電話番号・SNS等

安芸市本町3丁目10-35 Tel:0887-37-9071

にゅうがうちだいこん かい
入河内大根のこそう会

～「入河内大根」で交流の輪を広げよう～



収穫された入河内大根



入河内大根を使った料理

経緯

- 入河内地区だけで栽培されてきた伝統野菜である入河内大根が、他の大根と交雑して失われる危機に直面。
- 平成18年、地域の農家を中心に入河内大根の栽培を通じた地域活性化のため、「入河内大根のこそう会」を結成。

取組内容

- 大学生と連携したほ場(1a)での栽培を通じ収穫体験や調理の体験交流など、まちとむらの交流を促進。
- 野菜ソムリエ等を通じて、県内有名ホテル、レストラン、料亭等へ提供。
- 地元の指定管理者の温泉施設と連携し、「入河内大根定食」をメニュー化し1月中旬～2月下旬に提供。
- 量販店や市場を通じた販路の拡大。

活動の効果

- 入河内大根を使った料理がメニュー化され、高知県を代表する伝統野菜としても知名度が向上し、地域住民の意識も変わり、入河内大根が地域の代表作物であると誇りを持つようになった。また、入河内大根が地域内外とのコミュニケーションの媒介として大きな役目を果たしている。
- 高齢化や人口減少の中、地区住民に種を無料配布し、約20人の住民が休耕田等を活用した約40aのほ場で入河内大根を栽培・継承している。

応募団体からのアピール・メッセージ

先人たちが引継いできた伝統野菜「入河内大根」を栽培し、後世に保存・継承するとともに、農業体験交流によって地域の活性化に努めています。

住所・電話番号・SNS等

安芸市入河内588(東川公民館内) Tel:0887-32-3031